

日本・キューバ異文化交流プログラム（立命館大学）概要報告

立命館大学 安保寛尚

1. 経緯

本プログラムの企画の出発点は、2017年2月、報告者と本学国際課職員が、在キューバ日本国大使館員と持った会合に遡る。その際、2018年はキューバへの日本人移民120周年という節目の年を迎えるため、本学と共同企画を実施できないかという提案があった。また、キューバでも日本語教育への関心があるが、テキストが少なく、しかも古いため、今後の日本語教育の充実のためにテキストを寄贈してもらえないかという依頼を受けた。

その後、中南米における協定校開拓の一環で、キューバのハバナ大学の留学業務担当者との話し合いをおこない、この件を取り上げたところ、同大学における日本語学習者との交流会開催への協力は可能であるという回答があった。

こうして、在キューバ日本国大使館の協力を得て、日本人移民120周年を祝う記念行事に参加すること、そしてハバナ大学における日本語学習者と交流することを軸にした留学プログラムの企画が始まった。

帰国後、本学とハバナ大学の協力協定の締結のためのやり取りを進めた。また、本学の日本語教員にテキストの寄贈を呼びかけたところ、たくさんの協力があり、ダンボール数箱分に及ぶテキストが届いた。結果的に、諸事情から国際課主管のプログラムとはならなかったが、報告者が所属する法学部の支援があり、「学びのコミュニティ学外活動奨励奨学金」を受けて立命館大学公式のプログラムが実現する見込みとなった。その段階に至って、日本人移住120周年実行委員会に本プログラムの申請を行い、これが認定されることとなった。

2. 活動報告

申請書に記した活動概要は、「日系移民到着120周年を記念し、青年の島で日系コミュニティとの交流会を行い、その歴史を知る。またサンクティ・スピリトゥスの日本文化愛好団体（OtakuSS）、ハバナ大学の日本語学習者との交流会を開催し、言語・文化交換を行って両国の交流を深める。」というものである。参加者は、様々な学部でスペイン語の授業を履修している学生が中心に10人集まり、実際にそれらの交流会を軸として、観光を含めた活動をおこなった。具体的には以下の通りである。いくつかの写真も添付する。なお、旅行の手配は有限会社トラベルボデギータに依頼した。

	場所	活動
8/23(木)	関空/成田→メキシコシティ→ハバナ	移動、到着
8/24(金)	ハバナ	ハバナ市内観光：パルタガスたばこ工場の見学、コヒマル訪問とヘミングウェイ博物館の見学、サルサ体験
8/25(土)	ハバナ→青年の島	移動、モデロ刑務所、日系移民コミュニティでの昼食会、市立博物館訪問
8/26(日)	青年の島→ハバナ	ミヤザワ・ノボル氏による日系移民の歴史のレクチャー、日系移民との交流会、ビビハグワのビーチ訪問、移動
8/27(月)	ハバナ→ビニャーレス	移動、アレハンドロ・ロバイナたばこ農園の見学、「先史時代の壁画」訪問、たばこ栽培農家訪問
8/28(火)	ビニャーレス→ハバナ	インディオ洞窟訪問、移動、モロ要塞見学、サンテリーア儀式体験
8/29(水)	ハバナ→サンタ・クララ→サンクティ・スピリトゥス	移動、サンタ・クララでチェ・ゲバラの霊廟訪問
8/30(木)	サンクティス・ピリトゥス	Otaku Sancti Spíritus との交流会、サンクティ・スピリトゥス市内見学
8/31(金)	サンクティ・スピリトゥス→トリニダー	マナカ・イスナガの塔の見学、トリニダー市内観光
9/1(土)	トリニダー→バラデロ	市立博物館訪問、移動、シエンフエゴスの市内観光
9/2(日)	バラデロ→ハバナ	自由行動、移動
9/3(月)	ハバナ	キューバ芸術大学 (ISA) のキャンパス見学、日本大使館で意見交換会
9/4(火)	ハバナ	ハバナ市内観光 (自由行動)、ハバナ大学外国語学部の日本語学習者と交流会

9/5(水)	ハバナーメキシコシティ	移動
9/6(木)	メキシコシティー成田/ 関空	移動
9/7(金)	メキシコシティー成田/ 関空	到着

<青年の島>



モデル刑務所にて



日系コミュニティの方々との昼食会



交流会の様子



交流会での全体写真

<サンクティ・スピリトゥス>



交流会の様子：碁碁



交流会の様子：浴衣の着付け



交流会の様子



交流会での全体写真

<ISA>



キャンパス見学



日本文化講座責任者のロドルフォ・ディアス氏との全体写真

<ハバナ大学>



交流会での全体写真



日本から持参したお土産の一部

本学で集まった日本語教科書のほか、120周年記念ロゴが入ったTシャツ、スペイン語で書かれた日本文化に関する本、茶葉、花札やかると、浴衣、竹刀などを、交流会で協力を得た日系移民コミュニティ、Otaku Sancti Spiritus、ISA、ハバナ大学外国語学部に寄贈した。また交流会では、着付けや書道、剣道、折り紙などを実践し、交流を深めた。

今回の交流会を通して、日本語や日本文化に強い関心を持っているキューバ人が多くいることを実感した。そして、なかなか日本のものが手に入りやすく、また日本人との交流の機会がそれほど頻繁にはない同国において、わずかではあるが貢献できたことを嬉しく思う。その一方で、参加した日本人学生にとっては、日本とは大きく異なるキューバの社会や文化を知る貴重な機会になった。

3. まとめと今後の予定

食事でおなかの調子が悪くなったり、暑さに体調を崩す参加者はいたが、全体として本プログラムは順調に進み、当初の目的を達成することができたと思われる。交流会を開催した機関からも歓迎され、再会を期した。

今後の予定としては、今年10月中旬から、本学（衣笠キャンパス存心館）において本プログラムの展示報告をおこなう予定である。また、立命館大学国際平和ミュージアムにおける企画展示に応募しており、これが採用されれば来年6月にも同様の展示報告を開催する。

来年は日本とキューバの外交関係樹立90周年を迎える。今回の成功を踏まえ、可能であれば関連行事に参加する形で同様の企画ができればと考えている。

最後に、本プログラムを記念行事の一つに認定し、多大なるご協力をいただいた在日本キューバ大使館と実行委員会に深く感謝を申し上げる。